

会 議 録				
平成28年度第1回 生活支援事業協議体	日 時	平成28年6月3日(金) 14時00分～16時00分	場 所	小金井市役所 第2庁舎 801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	高良委員長(東京学芸大学) 近江屋委員(ボランティアセンター) 阿久津委員(地域福祉コーディネーター) 森田委員(また明日デイホーム) 清水民生委員(民生委員児童委員協議会) 高橋尚子委員(さくら体操リーダー) 第2層コーディネーター 鈴木氏(小金井きた地域包括支援センター) 金子氏(小金井ひがし地域包括支援センター) 中村氏(小金井みなみ地域包括支援センター) 雨宮氏(小金井にし地域包括支援センター)		
	事務局	鈴木高齢福祉担当課長、本木包括支援係長、松原、本山(介護福祉課)		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1)報告事項				
① 資源情報冊子「シニアのための地域とつながる応援ブック」作成状況				
② ベンチの設置について				
③ 活動の評価方法の共有				
④ 平成27年度の活動報告				
(2)協議事項				
① きた地区の今後の具体的展開について				
(3)次回協議体の開催予定				
3 その他				
4 閉会				

## 1 開会

(松原)

それでは、皆さん、お忙しい中、御足労いただき、ありがとうございます。

私、萩に引き続き、後任としてきました、松原と申します。よろしく願いいたします。

協議体はことしで2年目ということなので、皆さんの御尽力のおかげで、ことしを迎えることができました。

まずは開催に先立ちまして、皆様をお願いしたいことがございます。こちらで、今、録音を行っているのですが、この後の議事録作成のために行っております。皆様、発言の前にお名前をおっしゃっていただきたいと思っております。その後から、発言をよろしく願いいたします。

続きまして、配付いたしました、資料の確認をさせていただきます。

1枚目が次第となっております。

次に当協議会の名簿となっております。

資料1として、平成28年度の予定表があると思っております。

表紙にこきんちゃんがかかれている資料2がありますけれども、こちらはホチキスどめ2枚となっております。

資料3として、各包括の資料が3つあり、クリップでとめてあると思っておりますが、こちらは、活動報告がみなみ、にし、きた、ひがしの順にあると思っております。

最後に資料4として、コピック・アートの会と活動名が書いてある紙があります。

それと、地域ケア会議と生活支援体制整備協議体との連動と書かれました、コラムのコピーがあると思っております。

以上が資料となっておりますが、不足している資料などがありましたら、おっしゃっていただければと思います。特にない資料などはないですか。わかりました。

それでは、高良先生、よろしく願いいたします。

(高良委員長)

それでは、改めまして、昨年度からお世話になり、ありがとうございます。今年度初めてとなります、第1回目の協議体を開催したいと思っております。本年度も引き続きよろしく願いいたします。

それでは、まずは鈴木課長から御挨拶をいただければと思います。よろしく願いいたします。

(鈴木高齢福祉担当課長)

皆様、こんにちは。高齢福祉担当課長の鈴木でございます。

本日は、お忙しい中、お集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。

本事業がスタートいたしまして、2年目に入りました。今年度第1回目の協議体の開催ということになります。

これまで、本事業の取り組み目標であります、互助・共助による支え合いの仕組みづくりを念頭に、資源状況の可視化、地域ニーズの把握、課題解決に向けての多様な主体への働きかけ等について、協議体委員の皆様が中心となって、進めてくださっております。各県域で市民の自主グループ活動や新たなサロンの立ち上げ等が実現をしまいったというところがございます。

今後におきましても、こうした活動の安定した継続を図りまして、また新規開発も含めたさらなるサービスの拡充を図っていくために、この協議体を中核として、議論、検討を重ねていくことが重要であると考えてございます。皆様には、今年度も引き続き本事業の推進にお力添えをいただきたく、何とぞよろしくお願い申し上げます。

また、先ほど話がありましたように、介護福祉課包括支援係に松原が新入職員として、入所してまいりましたので、皆様、よろしく御指導、御鞭撻を合わせて、お願いできればと思います。

以上です。よろしく申し上げます。

(高良委員長)

ありがとうございました。

それでは、本日の参加状況なのですが、本日、森田様が御欠席でいらっしゃるということで、金子様がケース検討の会議をなさっていらっしゃるそうですので、終わられましたら、御参加いただけるということです。

## 2 議題

### (1) 報告事項

#### ① 第2層協議体の開催要件の整理（開催主体・主催）

(高良委員長)

それでは、早速ですが、議題に入っていきたいと思います。

報告事項につきまして、まず資源情報冊子「シニアのための地域とつながる応援ブック」ということなのですが、前回、昨年度の第4回の協議体のところで、どういうふうにすればいいのか、または題名、タイトルをどうすればいいのかを御検討いただきました。ありがとうございました。

それを受けましての作成状況だと思いますので、御報告のほど、よろしくお願いたします。

( )

それでは、皆さん、資料2と書かれた資料をお出してください。こきんちゃんの表紙

があるものです。

こちらが先ほど高良先生に御紹介していただきました「シニアのための地域とつながる応援ブック」の表紙として、考えているものであります。

1枚めくっていただくと、名称、活動内容、PR、住所、電話番号、活動日時といった、こういった情報を各シニアから寄せていただいて、これをまとめて冊子化する予定を立てております。

裏を見ていただくと、記載例として、このような記載をお願いして、冊子にしていこうと考えています。

まずは、今年度の6月中に暫定版として、冊子化までにしていき、200部を考えております。こちらの200部を、各地域の包括支援センターの介護福祉課の窓口に配付することを、現在、考えております。

また、来年度中に冊子化することを目指していきたいと考えております。

私からは以上です。

(高良委員長)

ありがとうございます。

何かこちらの冊子につきまして、御質問等おありでしたら、お願いいたします。

こきんちゃんが真ん中にきてくれるので、これはいいですね。

前回の協議体のときに、お話をいただきまして、そのときにいろいろ御意見をいただいたと思うのですが、その際に住所とか、電話番号の下のところに、何かコメントがあって、御自由に参加くださいとか、どこどこにまず連絡をくださいとかという、まずアクセスするための方法というのか、何かコメントみたいなものを入れたほうが、統一で入っていたほうが見やすいのではないかなど、いろいろ御意見がありましたけれども、そのあたりはどのようなふうになっていますか。

( )

そうですね。まず連絡先としましては、資料2を1枚めくっていただいたところにあります、電話番号のところに書いていただいて、後はお気軽にお声がけくださいといった内容は、PRのところに書いていただく予定です。

(高良委員長)

ありがとうございます。

ごらんいただいて、これはもうどこまでいっているのでしょうか。今から意見を出しても、反映できる状態でしょうか。それとも、ある程度進んでしまっている状態でしょうか。

( )

一応、まだ出していただいても間に合うのですけれども、6月10日までに各地域の包括支援センターの方をお願いして、各地域のこういった資料の情報を集めていた

だいているので、それまでに出していただければ、対応は考えたいと思います。まだ暫定版といった感じですので、正式に載るかどうかは未定ということになっています。

(高良委員長)

ありがとうございます。

その点では、包括の方々に情報収集をお願いさせていただいているということですが、実際に情報を集められていく中で、こういったところの内容を入れたほうがいいのではないかとか、こういったところの書き方、分け方のほうがやはりいいのではないかとこの御意見がございましたら、ここで上げていただければ、反映できると思いますが、いかがでしょうか。

(清水委員)

民生委員の清水です。

よくこういうときに会費は幾らと書いてあるケースが多いと思うのですが、この場合はどうなのかとか、100円とか、200円など書いてあるケースが多いです。ですから、会費についても、ここにはたまたま例が書いていないですが、回避の内容については、必要と思います。

(高良委員長)

確かにお金がかかるか、かからないかは大きいですね。それも幾らかというのは、その辺に関しては、どのあたりに入れるのが一番見やすいですか。この一番下のところでしょうか。住所、電話番号、活動日時、何とか、会費みたいな、その下に項目が入ったほうがいいのでしょうか。

( )

そうですね。確かに活動内容はPRに入れる内容とは違うと思いますので、その点は検討したいと思います。

(高良委員長)

住所、電話番号、活動日時のところだけ、文字が小さくなっているというのは、何か意図がありますか。

( )

レイアウト上、小さくしないと、ページ数がふえてしまうので、そこだけは小さくさせていただいています。

(高良委員長)

何か全体的にもうちょっと小さくてもいいから、このところは、文字が大きくないと、見づらくないですか。このあたりは、情報として、一番使わなければいけないところなんです。なので、ちょっと小さ過ぎるような気がします。

( )

これが実物大なので、小さい感じですか。

(高良委員長)

どうですか。高橋さん、ごらんになられていかがですか。

(高橋委員)

私もちょっと出したのですけれども、活動内容とPRのところは、ダブるようなところもあって、私のところの場合は、活動内容は小金井さくら体操をやっていますと、1行で済んでしまいます。レイアウト的なところはどうかなのでしょう。ほかの活動はもっと書くのかもしれないのですけれども、その辺は、実際に集まってきた内容を見て、レイアウトのことだったら、調整はできるのではないですか。

(高良委員長)

それでは、まだいろんなパターンが考えられる可能性がありますので、基本形というこの形は崩さずに、しかしながら、住所、電話番号等もある程度大き目の字で、見えるような形にさせていただいて、全体のバランスを見ていただくという形でよろしいでしょうか。

先ほど清水様からも御意見いただきました、会費とか、そういった情報も、可能な限り把握していただいて、上げていただくということで、よろしく願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。何か御意見、御質問はありますか。ありがとうございます。

実際に印刷に入る前に、一度、確認ができる状態というのはあるのでしょうか。もしくはこのまま集まったら、そちらでやってくださって、そのまま印刷にということでしょうか。

( )

一旦、刷らせていただいたものを、皆さんに交換便でお送りしまして、確認をしていただく予定ではおります。

(高良委員長)

ありがとうございます。

それでは、その際にまた最終確認ということで、御意見等おありでしたら、上げていただければと思います。

前回のときにもお話がありましたように、今度、暫定版になりますので、配付する際に、これに関する御意見をいただけるという形で、お願いすることになったと思いますので、フォードバックをどういうふうにしていくのかという方法についても、また御検討していただければと思います。

それでは、この点につきましては、よろしいでしょうか。

## ② ベンチの設置について 道路管理課との連携

(高良委員長)

それでは、②にいきたいと思います。ベンチの設置についてということで、よろしくお願いたします。

(本山)

介護福祉課の本山です。

2番目のベンチの設置についてというところを報告させていただきます。

資料1をごらんいただきたいのですが、真ん中辺、活動の第1層のところに、道路管理課(ベンチの設置)との連携ということで、矢印を入れて記載をさせていただいております。これは前回の協議体の際にも、ここがCOCOバスとベンチの設置ということで、高齢者にとって、快適なまちづくりの一環、外出促進ということで、移動の足ですとか、休憩できる場所の確保、ベンチの1つあれば、そこが居場所になっていく可能性もあるということで、情報を道路管理課からいただいて、連携の形で取り組みを進めていきたいと、本年度も考えております。

今、新たな情報としまして、蛇の目の跡地のところは、皆さん御存じだと思うのですが、新市庁舎の計画があるところなのですが、その高架下のところに、ベンチを設置する予定があるそうです。そのベンチに関して、どんなものかということ、高齢者の視点で構わないので、意見を寄せていただきたいと依頼を受けております

こちらは報告事項として、挙げさせていただいているのですが、もしよろしければ、きょう、この場でお一人1つずつでもいいので、何か御意見をいただければと思いますので、どんなものでも、色とか、材質、大きさ、形、機能など、どんなことでも結構ですので、もし何か御意見がありましたら、寄せていただければと思います。よろしくお願いたします。

(高良委員長)

ありがとうございます。

それでは、ベンチの設置に関して、場所のイメージが湧かないのですが、皆様方、御存じでいらっしゃるということですので、何か御意見がおありでしたら、お願いたします。

( )

ベンチの形状みたいなことですか。

(本山)

はい、何でもいいみたいです。

( )

高架下ですか。

(本山)

高架下ですね。この地図だと見づらいのですが、これは道路管理課が配付している地図なのです。コンパクトになっていて、携帯には便利なのですが、場所を探すのには不便なのですけれども、中央線が横切っているところの真ん中辺に、シルバー人材センターリサイクル事業所というのがあるのです。武蔵小金井駅と東小金井駅のちょうど真ん中ぐらいで、そこの高架下のところですよ。

通りの名前が緑中央通りです。その歩道の部分になると思うのですが、今、拡張工事をしていまして、そのところに設置する予定だそうです。ただ、設置するに当たっては、せっかくなので、よりよいものを置きたいということで、ぜひ御意見を上げていただきたいという依頼を受けました。

(高良委員長)

これが高架下ということで、歩いている最中の一休みをするのにいい場所なのか。

(本山)

そうみたいです。

あと、ここだけではなくて、前回の協議体のときにも、お話をさせていただきましたが、駅前の再開発地域のところで、そこも引き続き御意見を募集しておりますので、そこについてでも結構ですので、もし何かアイデア等ございましたら、教えていただけるとありがたいです。

( )

手すりについていたほうがいいです。

(本山)

手すりですか。

( )

立ち上がるときに、掴まる場所があったほうが皆さん、立ち上がりやすいです。

(高良委員長)

そうすると、割とベンチが何人も座れると、真ん中に1個ついているタイプがいいということなのですかね。

( )

( )

全てでなくてもいいかもしれないのですけれども、そういうものも選べるように置いてあるといいです。人によっては、そちらがいい場合があるかもしれないです。

(高良委員長)

ほかにかがででしょうか。

(雨宮氏)



にし包括の雨宮です。

立ち上がりやすいように、ある程度高さがあるベンチがいいと思いますので、御要望します。

(高良委員長)

ああいうものは、既製品ではなくて、ちゃんと高さも選べるのですか。

(本山)

意見の段階では、何でも寄せてほしいということでした。ただ、それが実現できるかどうかというところは、予算の関係もありまして、あれなのですが、ぜひいろんなものを上げていただければということでした。

(高良委員長)

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

(清水委員)

民生委員の清水です。

うちのすぐ斜め前の敷地のところに、ベンチが置いてあるのですけれども、それは個人で置いているのです。前、団子屋さんが来たものだから、今は団子屋さんはやっていないのですけれども、そこにベンチが置いてあって、高齢者の人がしょっちゅうそこで話をしています。1人の人は、徘徊しているのではないぐらい、毎日朝来たり、夜遅く来たり、そうやって話をしています。

だから、そういう意味では、ベンチは、今、高架下という話がありましたけれども、一般の民間のうちでも、道路の敷地がちょっと広くて、それがおけるところがあって、木もあって、日影があるとか、そういう場所があればいいと思います。

もちろんベンチは、民間の人に委託をして、たまに掃除してもらうとか、管理してもらうというのは、1つの例としていいのかと感じます。

(高良委員長)

ありがとうございます。

どうぞ。

(中村氏)

みなみ包括支援センターの中村紗絵子です。

高架下にベンチを置くということなので、雨風が防げて、すごくいいのかと思うのですけれども、あとは、線路沿いなので、自転車の往来とか、車の往来はあるのかということ想像すると、高齢者の方がぽっと飛び出て、危ないとかという危険性を考えるときに、割と見晴らしというか、周りがよく見て、気をつけて座ったり、立ったりできるようなところを、御検討いただけたらいいと思いました。

(高良委員長)

ありがとうございます。

高架下はどんなところなのですか。

(本山)

中央線の高架がこんな感じになっていて、その下が結構広い道路なのです。かつここで、先ほど申し上げた、緑中央通りというのも、すごく広い道路になっていまして、そこは歩道のところを拡張しているので、その歩道に設置する予定のようなのです。

(高良委員長)

歩道に設置するのだけれども、高架の下のところに設置するのですか。

(本山)

高架下の歩道の部分です。

(高良委員長)

ということは、その歩道は歩道だから、車が入ってくることはないですね。

(本山)

ないですね。

(高良委員長)

そうですか。それなら安心ですね。

ただ、自転車は入るといことですね。

(本山)

そうですね。

(高良委員長)

自転車は怖いですからね。最近、いろいろ事故もありますし、そういう意味では、安全性を確保できる場所への設置みたいなのが必要なのだと思います。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

(近江屋委員)

社協の近江屋です。

自動販売機が近くにあるといいです。

(高良委員長)

そうですね。そういうものもありますね。

(近江屋委員)

あと、公園っぽくなるのですか。

(本山)

そこまではわかりません。先ほど清水さんもおっしゃっていましたが、木が1本あると、高架下なので、もともと日陰かもしれないですが、ただ、緑が1つあるだけでもまた違います。

(高良委員長)

そうですね。やはり高架下は、何か殺風景な感じがあるので、居心地がいいという、木とかあったほうがいいです。そこまでお願いできるのかどうかは知らないです。

(本山)

でも、アイデアは何でもいいという話だったので、ぜひいいと思います。

( )

高架下の場合は、多分ずっとそこに居座る人が出てくる可能性はあります。雨がしのげるので、それが近所にしたら、嫌がる人も出てきたりして、難しいです。

(高良委員長)

そうすると、ベンチは、真ん中に寝られないように、手すりをつけておいたほうがいいのか、そういうことが出てきます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

ありがとうございます。

こんな感じでよろしいですか。

(本山)

ありがとうございます。

(高良委員長)

それでは、お伝えいただきまして、道路管理課の方と御検討いただければと思います。ありがとうございます。

### ③ 活動の評価方法の共有

(高良委員長)

それでは、③活動の評価方法の共有に入っていきたいと思います。

こちらにつきましては、お願いします。

(本山)

介護福祉課の本山です。

引き続きまして、③活動の評価方法の共有を御報告させていただきたいと思います。

前回の協議体の際に、みなみさんの活動モデルに、高良先生に直接実態というか、確認していただいた上で、評価シートのたたき台をつくっていただくということで、お願いをさせていただいたところではあるのですが、今後、こういった形のものをつくっていただくのが一番望ましいのかというところを、再度、これも報告事項に挙げておいて申しわけないのですが、この場で協議をさせていただけるとありがたいと思ひまして、お願いいたします。

(高良委員長)

どう進めればいいですか。先ほどお話をさせていただいたのが、次のところの27年

度活動報告に入ってしまうのですが、例えば資料3のところの2ページ目のところに、それぞれ皆様方が目標を立ててくださって、短期目標も上げてくださっているので、これらについて、実際にできているか、できていないかというところが1つの指標になるという話をしてくださっていたのです。

確かにここは実際に進んでいるのかどうかという、モニタリングの指標にはなると思うのです。しかしながら、それを今度、評価という形で、もちろんモニタリングと評価は、ある意味重複するところはあるのですが、具体的にこの活動を皆様方が、地域の方々とともにやってくださっている活動が、何らかのこういった成果を生んでいるという意味での評価を、明確にしていくということを考えていくと、これでは、なかなか難しいところがあると思いますので、逆に言うと、どこまで評価というものに求めるかということになってくるのだと思うのですが、その点はむしろ小金井市さんとして、どこまで求められるかというところがまずあって、それによって、成果として明確に評価した、成果としてこういうものができました、出ました、もしくは満足度が上がりました、これだけ人数がふえましたなど、何らかの結果としての成果みたいのところまで、しっかりと見たいのか、それでも、このモニタリングの中での実際やりましたという、結果としての評価として見ていっていいのか、そういうところはいかがなのでしょう。

(本山)

皆さんが取り組みやすい形での、振り返りに使えるような評価がいいです。なので、今、高良先生がおっしゃっていましたように、モニタリングのイメージが私の中では強かったと思います。

あと、懸念しておりますのが、皆さんの事務負担がふえてしまうのも、申しわけないというところがありまして、余り細かい設定ということをしていただいて、それについて、一つ一つこうであったと御報告をしていただくとなると、かなり負担がふえてしまう。なので、そのあたりで、皆さんにとって取り組みやすく、この目標が何月までになるから、こうしようとかという形で、一目でわかる形になっていて、かつその振り返りは、事務負担にならないようなものというのが望ましいと考えております。

(高良委員長)

ということですが、小金井市としては、そういうふうにお考えだということですので、そういった場合に、実際にやっていただく皆様方としては、どういった評価の方法というものがいいと考えられるかというところで、御検討いただければと思います。

今、資料3で出していただいているものは、必ず皆様がつくっていらっしゃるものと理解してよろしいですか。

( )

はい。

(高良委員長)

それでいえば、できる限り事務負担が少ないということを考えると、このベースとして、こちらの目標等も挙げてくださっているので、基本的にこの目標がどこまで到達できているのか、結果としてどうなったのかというところを見ていくという方向性で、評価を考えていくということではいかがでしょうか。

ただ、見させていただいて思うのは、例えばにしさんのものを見させていただきますと、目標として、町内ごとに高齢者が気楽に集まれる場所をつくるというのが、最終目標になられるわけですね。そうすると、結局タスク・ゴールとして、最終的に成果、結果として見えるものには、気楽に集まれる場所ができたというのが1つの評価指標になってくると思うのですが、それが幾つできましたみたいな、町内会ごとにできましたとかというのが達成できたかどうかという、評価指標になると思うのです。

ただ、それだけだと、結局何をやったのかとか、そこまで至るまでに何をしたのかで終わってしまうので、では、実際に気楽に集まれる場所ができた、それによって、どれだけの方々が集まったとか、もしくはそれによって、会話が弾むようになって、介護予防につながったなど、多分その先まで見ていく必要があるのではないかと思うのです。

このあたりに関しては、まだまだお時間的に、今の段階でその指標が必要だというわけではないと思うのですけれども、そういった視点も含めた形での評価をしていくということではどうかという気がします。ただ、そのときに一回一回満足度調査をしなければいけないとなると大変なので、実際に集まって、活動していただいている中での日ごろお聞きになられているような感想であるとか、実際に集まられている方々が、にこやかにいろいろお話をされている状況が生まれているということ自体が成果だと思うのです。そういったものも含めて、確認をしていただくという方法での評価ではどうかと思います。ですから、ここの短期目標のところは、プロセス的に徐々に1個ずつこれできてきたところでの評価がもちろんできることになると思います。

いかがでしょうか。何か御質問等おありでしたら、どうぞ。

(本山)

介護福祉課の本山であります。

先生が御多忙というのは、重々承知の上なのですけれども、みなみさんの活動をモデルにということで、前回、お話をさせていただいて、今回、改めて何かいい方法がないか、検討してということで、また戻させていただいてはいるのですが、今、先生が取り上げられた、にしさんをモデルとして、高良先生のほうで、何かしら御検討いただいたり、そういうことはどうでしょうか。

(高良委員長)

それは幾らでもやってもいいですけれども、先ほどおっしゃられたように、御負担

がない形でというのは、すごく重要な点だと思うのです。そうではなくても、今、本当に忙しいと思うので、なので、あくまでもこちらの既にやらなければいけないことが決まっていて、やられているものがあるのであれば、そこをもとに活用していくという視点は、必ず必要だと思います。

そういう意味では、例えばにしさんと、うちの大学からとても近いので、帰りに寄らせていただいてみたいな形で、お話の時間を持たせていただくとか、そういう形で、今、つくっていただいている、にしさんの目標であるとか、そういったものに対しての評価という意味での視点を入れた場合、私としては、こういった評価指標がいいのではないかみたいな御提案をさせていただいて、実際にやるとしたら、それは難しいとか、そういうところがあると思いますので、そういったところの御検討をさせていただいた上で、例えばにしさんと、モデル的にやってみたら、こんな指標ができますみたいなものを御提案させていただくということは、可能だと思います。

(本山)

ありがとうございます。

(高良委員長)

にしさんがよければです。

(雨宮氏)

にし包括の雨宮です。

やっていく中で、どうやっていったら効果的なのかということも、まだまだ分からない状態ですので、アドバイスをいただけるとありがたいと思います。

(高良委員長)

そう言っていただけるのであれば、そういう形で、私としても、ありがたいことに近いというのがとてもうれしいので、では、雨宮さんとお話をさせていただいてという形で進めていくということによろしいですか。

( )

ありがとうございます。

(高良委員長)

それでは、そういう形にさせていただきます。

そういった場合に、ぜひともこういうところは考慮してほしいということがあれば、今、ここで御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

とにかく負担をふやさないというのは、原則にしておりますので、そのほかに何かありますか。成果として、私たちが一緒に地域の方々としてやったことが、こんなに成果が見えたみたいな見える化をしていきたいとか、見える化とよく言われていますが、確かに見える化というのはとても大切で、それによって、多分御一緒に動かされた地域の方々も、やったみたいな満足感とか、達成感みたいなものを共有できると思う

のです。そうしていくと、また今度動いていこうかみたいな動機づけにもなってくると思うので、そういったことも頭に置きながらできればいいと思っています。

よろしいですか。

それでは、雨宮さんには、お忙しいところ御迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

#### ④平成27年度の活動報告

(高良委員長)

それでは、④に移っていきたいと思います。平成27年度の活動報告です。これは資料3で順番にお願いしてよろしいですか。

それでは、資料3をごらんいただきながら、まずはみなみエリアからお願いいたします。

(中村氏)

みなみ包括支援センターの中村です。

資料3にあります、みなみ包括の資料をごらんください。

みなみ包括支援センターでは、平成27年5月の協議体から、地域特性について知るために、地域の中で、どんな資源が、どれぐらいあるかを確認してきました。あわせて、東京都長寿医療センターに御協力いただき、基本チェックリスト回答者の方々の回答から、こちらの資料にあります内容を地域課題として挙げさせていただいております。

回答者の方からは、転倒への不安は大きい、この1年間で転倒したことがあると答えた人が多かったことから、1番にあります、転びやすい人が多い。また、要包括の中で、週に1回以上外出していると答えた人の数が多かったことから、外出している人が多いというものと、BMIが18.5以下の人が要包括内で一番少なかったことから、3の痩せている人が少ないという、地域の特徴を上げました。

みなみエリアは大きな坂があり、坂の下で生活をされている地域住民の方が多くおります。また、エリア内に大きな幹線道路が幾つもあり、交通量も多いエリアですので、必然的にバスなどの交通機関を使っての外出をする機会がふえております。ただ、地域の住民の方々の外出ができていう利点を生かし、転びやすさをカバーできる交通範囲内での活動、居場所がふえることが介護予防につながるのではないかと考えて、地域目標として、バスに乗らず、徒歩や自転車での範囲で出かけられる拠点をふやすという目標を立てました。

短期目標としては、地域にある課題を調査し、包括で立てた目標との違いがないかということを確認することとします。それはデータのみではなくて、地域の中で、実

際に感じられる課題がどのようなものがあるかを知るために行いました。

また、到達目標の3つ目にあります、地域住民が考える地域課題を理解するために、基本チェックリストから見える地域の課題をテーマに、11月地域ケア会議を行いました。対象を制限せずに、小規模なエリアごとでの地域課題を聞き取るために、このテーマとしました。その中でも、地域や人との交流が少ない、集まれる場所や用地がないという課題が多くエリアから上げられたことが確認できます。

その後、民生委員さんや老人クラブの会長などから、御意見をいただいたことがきっかけとなり、前原1、2丁目というエリアで、地域を考える会を実施しまして、小規模なエリアにある地域ごとの課題について、話し合いを進めてまいりました。

開催しようとなったときに、当初、開催の中で、活動の企画をしたいとお話をいただいていた、老人会の会長さんが逝去されてしまいまして、当初の計画の方法では、進められなくなってしまいました。話し合いにて、町会長さんや民生委員さんの御協力をいただきまして、検討をし直した結果で、やはり地域の中では、地域のネットワークが希薄になっていることを、課題として感じていることがあり、地域でつながれる場所をふやすための居場所をつくろうという話でまとまりました。

また、エリア内の資源についても、御提案をいただきまして、木下整骨院さんという場所で、無料開放をしていただける了承もいただきましたので、お茶飲み会ができるような場所としての開催を進めていこうという話をしているところです。

以上になります。

(高良委員長)

ありがとうございます。

何か御質問等がありましたら、お願いいたします。

よろしいですか。この木下整骨院さんとは、第2層の協議体でお話し合いをされていらっしゃるのですか。

(中村氏)

話し合いをしました。

(高良委員長)

そこで、無料のいろんな話し合いをしよう、ここで貸していただき、いろんな場にしていこうということが、お話し合いで出てこられたのですか。

(中村氏)

町会長さんや民生委員さんから、あそこには人が集まるのではないかと行って、資源情報としての提案をいただきまして、包括職員のほうで足を運んで、先生に御相談に伺ったところ、いいという形で快諾いただいて、整骨院もちょうどお昼時間が閉院時間になっているのですけれども、その時間を使ってであれば、待合室に10人ぐらい集まれるので、お茶飲みをすることができるということで、おっしゃっていた



だいています。

(高良委員長)

いつぐらいから始める予定でいらっしゃいますか。

(中村氏)

うちとしては、6月22日ぐらいからです。

(高良委員長)

早速ですね。

(中村氏)

あとは、先生の御了承をいただければ、始められると考えています。

(高良委員長)

どうですか。皆さん集まりそうですか。

(中村氏)

周知活動であるとか、PR方法がすごく大事になってくると思うのですが、地域に根ざしている整骨院は、もともと常連のお客さんが頻繁に通っていて、閉院時間もそこでお話をして、持ち寄っておしゃべりをしているということを知るので、地域に限定して、掲示板であるとか、町会の回覧板などをうまく使っていければ、人が呼び込めると期待しています。

(高良委員長)

すごくいいと思うのは、地元の皆さんが使われている整骨院さんでできるというのが、皆さん来やすいです。集まりやすいです。

(中村氏)

場所をお伝えしたら、あの場所とわかるようなところで、立地がとてもいいので、よかったですと思います。

(高良委員長)

もしあれだと、皆さんが集まって、お話し合いをされたりする中で、骨のこととか、骨粗鬆症の予防など、何とかかんとかよくわかりませんが、そういうふうなことで、何かお話何かをちらっとしてもらって看護師さんにいらしてくれとかあったりすると、また一段と、単なるお話し合いだけでもないよさというのが出てくるのかもしれないです。ありがとうございます。

それでは、にしエリア、お願いいたします。

(雨宮氏)

にし包括支援センターの雨宮です。

うちのほうですと、GISによる地域課題から、いろいろな条件、原因等を考えました。

にしの目標としては、町内ごとに高齢者が気軽に集まれる場所をつくるという目標

を設定いたしました。ただ、GISだけの結果で、実際にこの課題が合っているのかどうかというところがわからなかったものですから、にし独自のアンケートを実施して、口頭での聞き取りなども行いました。

また、小地域ケア会議でも、いろいろ課題を伺いまして、居場所、ネットワークづくりという課題が出てまいりました。これは最初に目標を設定したものと合致するところ、居場所づくりというところを目標に、動くようになりました。

二次予防の返信ハガキを選別するところで、動いてみたのですが、データが古かったというところもありまして、これは実際には活用されてないところで、自分のところは三角になっております。

アンケートを実際に実施してみて、いろいろな御意見をいただきましたので、丸になります。アンケートを実施し、小地域ケア会議も実際に実施いたしました。

アンケートの結果で、担い手の発掘に関しましては、これはなかなか進んでおりません、三角の表示になっております。社会資源調査は、実際にいろいろな社会資源を調査いたしております。

前回の第1層協議体のときに、公共の場所を探すというところで、皆様にいろいろ御相談をしまして、公共の場所でなくても、場所があるのではないかという御意見をいただきましたので、社協さんに協力をいただきながら、またちょっと違った居場所を、今、探している段階です。それを進めていく過程では、場所だけではなくて、人の力もとても必要だということを確認しまして、これからは人という面からも社会資源を調査して、協力いただける方と探していかなければと思っております。

報告は以上なのですが、いろいろな会議があるという報告書もそうなのですが、所内で話し合いました、一応公の場に出る資料となりますので、個人名は出さずに、真ん中のメンバー、団体という形で載せさせていただいております。

以上です。

(高良委員長)

ありがとうございます。

何か御質問、御意見等がありましたら、お願いいたします。

それでは、私から、公共の場所に限らずということで、探されているということなのですが、進みぐらいはどんな感じなのでしょう。

(雨宮氏)

公にはなっていない都営住宅を紹介するところがありまして、今、そちらで新しく実施をしております。それと、施設を持っていらっしゃるところの空き部屋を一時的にお借りするというので、お話を進めております。

(高良委員長)

それでは、これだと順調に場所は確保できそうですね。

(雨宮氏)

そうですね。

(高良委員長)

やはりポイントは、そこで実際に動いてくれるというか、中心になって、担ってくださる人ということなのですね。

そのあたりはどうなのでしょう。何かもちろんそれぞれの近くのところで、そういったことを担ってくださるような方が見つかるというのが、一番理想的ではあると思いますけれども、どういった視点で、こういう人を見つけることができるみたいなことは、社協さん、今までの御経験上からいかがですか。

(近江屋委員)

社協の近江屋です。

何とか養成講座とか、人材育成と思います。ファシリテーター養成講座とか、ボランティア養成講座のような各種講座など、今、子供、若者の居場所の居場所づくり講座という3月とかにやったのですけれども、すごく熱心な方が集まって、子供食堂をやろうということから始まったりとか、お年寄りの居場所づくり講座とか、そうやればまた違います。ただ、若いお母さんたちが来ると、すごくスピードは速いのですけれども、高齢者の方の場所づくりとなると、少しゆっくりいくとか、でも、人材育成ですか。

(高良委員長)

確かにそういうことをやると、必ず意識があって、やりたいと思う方が集まりますね。そうしたその方に中心になっていただけてというのは、一番お互いにとってやりやすいです。ありがとうございます。

ほかに何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、ひがしエリア、お願いいたします。

(金子氏)

ひがし地域包括支援センターの金子です。

ひがしエリアの地域課題としまして、鬱傾向の高い人が多い、低栄養・BMI低下の人が多い、運動器が低下している人が多いという3点の課題から、地域の目標は、今ある社会資源を活用し、居場所づくりをするという点に設定いたしました。

こちらの目指すところとしまして、地域の公園等の場所で、青空さくら体操が実施できたらいいというところを目指して、この目標を設定しています。

短期目標は、社会資源、自治会や商店街の方々と懇談をする場をつくって、意見交換をする。地域の方々から、具体的な社会資源を情報収集できたらということを①に設定いたしました。

②③は、地域住民にお知らせをして、実際に実施するところまでを目標に設定いた

しまして、具体的に東町4丁目東部地区を知る会を27年度は3回開催いたしまして、かわら版の作成と、新小金井駅のロータリーで園児と地域の住民の方、高齢者の方々とともに、さくら体操の実施を包括で行っております。かわら版は、包括からの情報発信という形だけではなく、保育園の行事等の発信に使っていただいたり、商店街からの情報も載せられるような形をとろうと思っております。

新小金井駅ロータリーで行った青空体操も好評で、お声がけをしていない方も、足をとめてごらんになってくださったり、高齢者の方を対象にはしていましたが、子連れのお母さんたちも、何人か足をとめて御参加くださったりという御様子も見られましたので、こちらは天候等を考慮しながら、今後も開催については、検討していきたいと思っております。

そのほか、今回は東町4丁目で行いましたが、他地区で懇談会を実施しようということで、検討したところ、本年度につきましては、中町1丁目、4丁目で行いたいということで、調整をしているところです。

以上です。

(高良委員長)

ありがとうございます。

それでは、御質問、御意見等がありましたら、お願いいたします。

東町4丁目東部地区を知る会がお話し合いをされて、かわら版の作成・発行もされたし、園児とのさくら体操もやられた。知る会のメンバーは、2層協議体のほうではなくて、どこのあれになるのですか。メンバーの方は、すごい人数ですか。

(金子氏)

知る会に出席された方ですか。大体はその地域の方をお招きしてという形、4丁目にいっしょの方ということで、主に4丁目にある商店街の方にお声がけをしているところです。

(高良委員長)

例えば3番の2層協議体にメンバーの方を書いていますけれども、こういう方たちが皆さん入られているのが、これなのですか。

(金子氏)

はい。

(高良委員長)

すごいですね。いろんな地域の方たちがお入りになられて、やられているということなのですね。

新小金井駅ロータリーでやろうということになったのは、どうしてなのですか。

(金子氏)

6月20日、第1回目の知る会を行った際に、参加者の方々の中から、こういう会

を持つならば、結果的に何か形として残したいという声が上がりまして、3回会を重ねる中で、具体的に何ができるかということを考えました。会の出席者の方に、保育園の園長先生もいらっしゃったので、園児さんも交えてやってみましょうかというのが、結論になっていると思います。

(高良委員長)

これは場所をロータリーにされたのは、何か意図がありますか。

(金子氏)

さくら体操の周知はもちろんなのですが、やはり人の目につく場所で、気軽に足をとめて参加をしてもらいたいという狙いも含めて、広く目につきやすい場所で、なおかつ4丁目の所在地の中でということで、場所を決定いたしました。

(高良委員長)

JRさんは、文句は言わなかったのですか。何か許可を得たのですか。

(金子氏)

許可は、市役所の環境関係のところに届け出を出して、御了解をいただいての実施になります。

(高良委員長)

そうですか。ありがとうございます。

これは1回だけですか。

(金子氏)

まだ1回です。4月に予定していたものが、雨天中止になりまして、5月に実施いたしました。

(高良委員長)

継続できていくといいですね。

(金子氏)

皆さんからも、またやってほしいというお声が上がってしまして、そこは町内で検討していきたいところです。

(高良委員長)

どうもありがとうございました。

それでは、きたエリア、お願いいたします。

(鈴木氏)

小金井きた地域包括支援センターの鈴木です。

きた地域の27年度の活動の報告ですが、きた地域もGISから導き出された地域課題を受けて、地域の目標として、友人づくりができる場所をつくるということで、行動のところで、3つ挙げています。

1つ目の町会の集まりに足を運ぶというところなのですが、これは町別協議

会で民生委員の方とお話をしたり、地域福祉ファシリテーターの連絡会にも参加をさせていただいて、いろんな方と顔つなぎができたというところでは、指標のところは、○△などを書いていないのですが、ある程度達成できたと考えています。

また、集まれる場所探しというところで、きた地域の施設全てに打診ということで、考えていたのですけれども、全てにということにはできていないのですが、ただ、新しくできたサービスつき高齢者住宅の地域交流スペースの貸し出しができるというお話ですとか、神社の社務所を使っていいというお話ですとか、新たな資源を見つけることができたというところでは、ある程度達成できていると考えています。

地域ケア会議の場で、社会資源をつくるということテーマに話し合うことに関しては、社会資源をつくるということではなかったのですけれども、昨年度はちょっとボランティアを考えるということテーマにして、助け合いに関する意識をまずは把握しようということで、話し合いをして、今年度はちょっとボランティアの実践例みたいなものを紹介して、意見交換をして、具体的なイメージを持っていただいて、次のステップで、資源づくりについて話し合っていければいいと思っていて、今、段階的に進めている状況です。

このほかに、実際に地域から上がってきた声をきっかけに、この後、お話しします、居場所づくりに向けて協議をすることができましたし、また、地域の方から、御高齢の方向けの食事会をメインとしたサロンをつくりたいというお話も、最近は聞かれています、社協の皆さんとも協力しながら、今、協議の場を持っているところで、いろんな方から少しずつ声を受けて、活動をしている状況です。

また、地域課題については、やはりGISから導き出されたものが、実際にいろんなところで顔を出したり、お話をする中で、実情とずれがあると感じています。特に原因の仮説を立てたところは、実情とは違うと感じますので、改めて課題の把握については、検討し直す必要があると考えています。

以上です。

(高良委員長)

ありがとうございます。

何か御質問等がおありでしたら、お願いいたします。よろしいですか。

それでは、引き続き、協議事項のほうで、きた地区の今後の具体的展開についてということで、お話し合いになりますので、そちらに移っていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

( )

はい。

## (2) 協議事項

## きた地区の今後の具体的展開について

(高良委員長)

それでは、協議事項に移っていきたいと思います。「きた地区の今後の具体的展開について」ということで、お願いいたします。

(鈴木氏)

きた地域包括支援センターの鈴木です。

今のきた地域の取り組み状況についてということで、御報告します。

きた地域の中では、地域の方の声から、コピック・アートの会という、これは仮の名称なのですが、そういったものをつくり上げた段階で、その経緯と経過、今後の課題についてお話して、皆さんの御意見をいただきたいと思っています。

経緯なのですが、本町高齢者在宅サービスセンターの相談員の方から相談を受けまして、地域支援事業のかいてき健康クラブが終了することに伴って、認知症の予防の活動とか、認知症が心配される高齢者の把握の場がなくなってしまうということをお話しているというお話で、認知症予防のための沙龙的な活動が何かできないかという御相談があったので、活動の場所探しから、協議を進めていきました。

まず最初に昨年2月、地域の資源を回っていたときにお話をいただいていた、ピースガーデン小金井さんに、交流スペースの開放、使用をさせていただけないかということで御相談に行っています。結果としては、使っていただいているということで、お返事をいただいて、どんなことをやろうかとか、どれぐらいの頻度でやろうかということを決めていくに当たって、かいてき健康クラブがどんな活動をしているのか、見学していきましようということで、2月17日にコピック・アートの活動を見学しました。

3月に2回目の協議の場を持ちまして、結局、コピック・アートという活動をやっというということになりました。コピック・アートというのは、写真をパソコンで取り込んで、線画にして、コピックというペンで塗るとい、大人の塗り絵のような感じの活動なのですが、非常に集中して色を塗ったり、どんな色を塗ろうかを選ぶことが、脳に刺激があって、認知症予防に効果があると言われていた活動ということで、この活動をしていこうということになりました。

今後の流れについてということで、この時点でざっくりと協議をしまして、4月から月に1～2回ぐらいでやっというということになりました。

あと、開催前に、職員向けに実際に勉強会を実施しようということになりました。

活動の周知方法として、きた包括のイベントとして、不定期で開催している、介護予防キャラバンでこの活動を取り上げて、周知していこうということになりました。

あわせて、ポスターとチラシを作成していきましょうということで決まって、2回目は終わっています。

3回目の協議では、実際にコピック・アートの勉強会を実施して、作業とか、手順の確認をした後に、介護予防キャラバンについての打ち合わせをしています。

4回目の協議では、介護予防キャラバンの打ち合わせのほかに、4月から実際に開始するに当たって、参加費をどれぐらいとろうかということをお話しています。1,500円から2,000円ぐらいで考えようかということで、この時点では決まっています。また、かいてき健康クラブの卒業生に声かけをして、活動内でのリーダー的な存在になっていただくかという意見も出て、4回目は終わっています。

裏面にいきまして、実際、講師の先生と日程が合わなくて、4月は開催ができなかったのですが、そのかわり、5月から7月で、月1回無料の体験講座をしようということになって、実際にもう開始しています。

今は職員の方が中心になっているのですが、いずれは、活動参加者の方が中心になって、活動を運営して欲しいという思いもありますので、かいてき健康クラブの卒業生の方向けに、ボランティア育成講座のような、別枠で活動を設けて、指導していくという案が出て、その方向で、今のところ検討しています。

実際に5月11日には、無料体験講座を開催して、5月25日には介護予防キャラバンを実施していますが、いずれも申し込みが2名ですとか、4名ということで、少なくなっています。

今後の課題としては、活動の定着と参加者をどういうふうにふやしていったらいいかということと、女性がほとんどで、男性をどうやって取り入れていったらいいかということ、あとは、ここには載っていないのですが、先ほど申し上げましたように、活動の主体が職員ではなくて、参加者にやっていただきたいということで、そういうふうによく移行していく方法というか、何かそういったいい案があればと思ひまして、御意見をいただけたらと思っています。

以上です。

(高良委員長)

ありがとうございます。

それでは、御質問がありましたら、お願いいたします。

済みません、私がよくわかっていないのですが、ピースガーデン小金井というのは、何なのですか。

(鈴木氏)

サービスつき高齢者向け住宅です。昨年10月にオープンしたところです。

(高良委員長)

そこに地域交流スペースがあるということなのですね。



(鈴木氏)

はい。

(高良委員長)

それを使っていいということですね。

(鈴木氏)

はい。

(高良委員長)

もう一点、確認なのですが、かいてき健康クラブというのは、どこがやっていたものなのですか。

(鈴木氏)

本町高齢者在宅サービスセンターです。

(高良委員長)

そこでは、継続的にコピック・アート活動をやられていたのですか。

(鈴木氏)

コピック・アート以外にも、認知症予防に効果があると言われていた活動をいろいろやっていました。

(高良委員長)

現在はもう終了されているのですか。

(鈴木氏)

そうです。

(高良委員長)

かいてき健康クラブでは、ほかにもいろいろやられていたのだけれども、コピック・アートを選ばれたというのは、何か意図はあるのですか。

(鈴木氏)

まず講師の先生がいるということがすごく大きくて、やはり教えてくださる方がいると、活動がやりやすかった。初めから何をやろうかと考えるよりは、指導して下さる方がいるというところが、すごくやりやすくて、一番大きかったです。

(高良委員長)

今も先生が中心でやられていて、先ほどおっしゃってくださったように、卒業生の方々に中心になっていただいているという、移行を考えていらっしゃるわけですが、将来的に卒業生の方が、先生がいらっしゃらなくてもできる状態というのは、コピック・アートでできるものなのですか。

(鈴木氏)

講師の先生に教わる、先生の意見を聞きながらやるのが、本来は必要だと思うのですが、先生と連絡を取り合ったりとか、場所をとったりとか、きょうの参加

者は何人いるということなどを、担ってくれる人があらわれるといいと思っています。

(高良委員長)

コーディネート機能をやられる方ですね。

(鈴木氏)

そうですね。

(高良委員長)

この先生は、有償ですか。

(鈴木氏)

講師代としてはとっていません。ただ、ペンのお金がかかるので、そういった部分での費用として、1,500円から2,000円が予定になっています。

(高良委員長)

ありがとうございます。

それでは、何かほかに確認しておくべきこととか、御質問はありますか。

なければ、課題につきまして、皆様と御一緒に検討していければと思いますが、先ほどお話がありましたように、最初は申し込みが少ないとは思いますが、2名だったということで、その後、4名の方が参加されてという形になってはいますが、これをふやしていくことを考えた際に、何かいい案はありますかでしょうか。もちろん中身、活動自体も含めてという感じですね。

(鈴木氏)

そうですね。

(高良委員長)

最初は、先生がいらっしゃって、始めるという意味でも、コピック・アートというのは、やりやすいところがあったのだと思いますが、どこまで皆様方のやりたいという思いとぴったりくるのかというのが、特に男性の参加をふやすという意味においては、なかなか難しいところもあるのかもしれないし、これは1つの活動だけに限定をする必要があるわけでもないのですか。

(鈴木氏)

そうですね。

(高良委員長)

日にちによって、いろいろというか、月によって変えることもありなわけですね。

(鈴木氏)

はい。

(高良委員長)

今までいろいろ活動されていらっしゃる中で、こういう活動だったら、男性の方々もいっぱい参加してくれたとか、こういう呼びかけをしたら、割と人が集まったとか、

何かあれば、ぜひとも共有していただければと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ。

(阿久津委員)

小金井社会福祉協議会の阿久津と申します。

講座等をやるときに、男性、特に高齢者の方というのは、大学ですとか、予備校ですとか、そういったネーム的なものが大きいと思います。学ぶというところでは、非常に共通していると思うのですけれども、コピック・アート自体は、先生をずっと継続していく予定ではあるのでしょうか。

(鈴木氏)

今のところは、そうです。

(阿久津委員)

最終的に活動者が主体となるということであれば、活動者が先生となっていかなければいけないという目標が最終だとすると、コピック・アートの養成講座という形にしたほうが、最終目標には近くなると思います。

(高良委員長)

ありがとうございます。

そういった場合、今度はコピック・アートであるべきかどうかということも、かなり大きいような気がします。どうなのでしょう。これは男性が誰もいないので、清水さんに聞いてしまうのですが、男性の視点からはいかがでしょうか。

(清水委員)

何の場合でも、男性というのは、少ないです。皆さん御存じのように、女性と男性は違いがあるので、難しいですけれども、今、話を聞いていて考えたのは、近所の町会の役員会か何かに説明をして、理解を得るというのも1つの手だと思いました。緑町なら緑町、あそこは緑町ですから、緑町の町会は5つあるのですけれども、その役員会の日にちがわかった時点で、そこへ行って説明をするとか、あるいは緑町全体の連合町会という役員会もありますから、そのときに行く。そうすれば、1回で済みませけれども、そういうことも必要だと思いました。

実際、コピック・アートがどういうものかということを知っている人は、我々の年代は、余りいないと思います。こういうものだということがわかって、やってみて、楽しいということがわかって、町会役員の人から口コミで、また仲間にそれが伝わって、徐々に伝わっていくとか、そういうふうに、地道に広げていくとか、そういうことも必要だと思います。

(高良委員長)

口コミが一番大きいです。実際、行くとなるのは、やはり口コミです。

コピック・アートというのは、認知症予防に効果があるのですか。無知で済みませ

ん。

(鈴木氏)

効果があると言われていています。実際に杏林大学病院で、塗るときの脳の動きを調べて、非常に脳が動いていて、効果があると証明されているものだそうです。

(高良委員長)

そういうものを全面に出したほうが、多分来られるような気がします。コピック・アートと言われても、イメージが全くわからないし、アートって、絵でも描くのかみたいな感じになるよりは、認知症が予防できますとあって、まして、何々大学の何とかで結果が出ましたみたいなほうが、特に男性は引かれませんか。

(清水委員)

おっしゃるとおりです。

先生が言われたように、認知症と言われると、自分は認知症になりたくないと思うから、その予防に参加してみたいというニーズはあると思います。

(高良委員長)

そこをぱっと、キャッチーに出していくことが必要な気がします。皆さん、認知症予防というのは、割と目が引かれます。私も引かれますけれども、そういった意味では、出し方もありますし、また、清水さんから先ほど御紹介いただきましたように、町内会とか、そういったところの役員の方々に御説明いただくというのも、1つの方法なのだと思います。

ほかに御経験等から、こういったものがないということは、ございますか。どうぞ。

(高橋委員)

高橋です。

どんな活動がしたいかといったときに、介護予防みたいな、自分のためになることもそうなのだけれども、もう一つ、そこに意味を持たせて、特にリタイアして、まだ元気で何かしたいと思ったときに、人の役に立つことをしたいという、人間の根底にあるプラスのものをくすぐるような内容を含めて、誰かと集って何かの活動するのだけれども、それはちょっと社会的な意味があるとか、役に立つとか、本当に小さいことでいいと思うのです。雑紙でゴミの袋を折るとか、何か役に立つようなことも含めて、例えば公園清掃とか、缶を拾ってリサイクルに出すのに洗ったりするとか、よく作業所などでやっているのですけれども、あと、パチンコ屋の人が、最近、よくゴミ拾いなどをやっています。あんなことも含めて、社会参加、人の役に立つということ活動を内容に入れると、男性なども比較的出やすいのではないかと。自分のことを考えたときも、プラスアルファで人の役に立つといいと思えるので、そういう視点も入れられるといいと思います。

(高良委員長)

認知症予防もできて、人の役に立つ活動はないのですか。ありませんか。実際、自分のためにもなるし、かつ、それがまた人のためにもなるというのが、確かに一番いいです。

どうぞ。

(本木包括支援係長)

事務局の本木でございます。

今、まさに高橋委員がおっしゃっていたように、今回の国の制度改正の内容の1つに、元気な高齢者を活用して、地域の支え手となる仕組みづくりをという項目もございます。暫定予算の関係で、施行がちょっとおくらせているのですが、本年度の新規事業としまして、介護支援ボランティアポイント事業というものがございます。周知はこれからなのですが、主に介護の事業所様に登録をしていただき、参加をしたい方も登録という形になりますが、主にピースガーデンのようなところで、ボランティアをなさって、その時間に応じて、職員の方がポイントを押す。そして、それが最終的には、さくらポイントカードという、商工会が出しているカードに付与され、1人頭上限5,000円という枠はございますが、地域の商店にも還元するという仕組みを、今後、広めていきたいと考えております。

予算が介護保険関係ということになりますので、対象としましては、介護保険の認定を受けていない方になってきますけれども、今回の資料4にございますような、こういった1つの活動ツールとして、ちょうど裏面に、卒業生がボランティアとしてというくだりがあるかと思えます。ですから、こういった方々が介護保険を利用されていないということであれば、まさにこの事業の対象にもなりますので、活用していただければと思っています。情報提供でございます。

以上です。

(高良委員長)

ありがとうございます。

そうすると、一段とやりたいという方もふえられるかもしれないので、そういう意味では、コピック・アートももちろん1つの活動として、重要なところだと思いますし、先ほどいろんな方からもお話がありましたように、出し方とか、伝えていく方法を変えていくによって、人を集めることはできると思いますが、それプラス、別の活動なども考えあわせて、先ほどお話いただいたような、ボランティアとして活動することが、御自分にとってもいい影響があるし、プラスそれがボランティアとして、どなたかほかの方に対してもという、そういった状況をつくっていく活動を新たに考えていくことも、1つのことなのだと思います。ありがとうございます。

ほかに何かありますでしょうか。まだお時間的に大丈夫です。

(本木包括支援係長)

済みません、追加ですが、お話するのがおくてしまいました。

事務局の本木でございます。

認知症ケアパスという、別の会議体がございます、そちらでもいろいろと協議をしているところでございます。男性の方は、デイサービスに行くことを嫌がるというお話もございました。例えばその方が農作業を通じてということであれば、行ってもらう機会があるのではないかと委員さんからの声があり、そこにボランティアさんなり、手伝っていただく人がいて、農作業ができる場所があつて、例えばとれた収穫物を最終的にみんなで食べようみたいな、楽しいことができたらいいという話が、実は協議の中で話されているところもございます。

同じ施設に協力がいただけるかもという話も、今、出ているところなのですが、こちらのキーワードは、認知症の方ということになっています。どうやら協力いただける地域の方もいるというお話もございますので、そういった別の切り口で、小金井らしい、小金井農地を活用したということで、展開できたらいいという話も、別の協議体では取り交わしをしているところでございますので、こちら情報提供でお伝えしたいと思います。

以上です。

(高良委員長)

ありがとうございます。

整理なのですが、そちらの活動をもう一度言っていただいていいですか。何に入るのですか。

(本木包括支援係長)

何のことですか。認知症ケアパス検討委員会ですか。

(高良委員長)

認知症ケアパス検討委員会でのお話ですか。

(本木包括支援係長)

そうです。

(高良委員長)

実際に動くときは、主体となって動かれるところは、どこになられますか。

(本木包括支援係長)

まだそこまで具体的にはいっていないのですが、地域資源を活用した中で、できる活動ということになると思います。地域の自主的な活動資源ということで、先ほどの介護支援ボランティア活動事業を活用していただければ、要するにスタンプを押してくれる拠点が決めれば、どういう活動であれ、そこに協力してくれる地域の方に、ちょっとだけけれども、還元できる。その方自身もお元気になる。そして、利用料が発生する場合もあるかもしれないですし、ちょっとした自己負担で済むのであれば、地域

の施設ですとか、そういったもののPRも兼ねて、いい形でシステムづくりができると思っています。

(高良委員長)

ありがとうございます。

ボランティアポイントとか、そういうものに関しては、皆様方が活動していく中で、周知していかれて、実際に地域の方々が活用される部分になってくると思うのですが、今、おっしゃられた農作業とか、そういう部分に関しては、こちらで考えられる社会資源の開発とか、地域の方々との活動の連携というか、もしかすると、重複するかもしれないし、一緒にやったほうがいいのかもしいないみたいなどころがあると思うので、そういったところの連携をしていくシステムとしては、どういう形が考えられますか。

(本木包括支援係長)

事務局の本木でございます。

これは1つの仕掛けだと思っておりますので、どのように広げていくかというところは、今後の課題でもございますし、実際に周知などは6月からになりますので、そこで地域の方の声を反映させていきながら、思わぬ活用方法もあるかと思っておりますので、今後、幅広く浸透していけばいいと思っています。

(高良委員長)

それぞれいろんなところで、いろんな検討会がなされていて、いい意見とか、アイデアなども出ていると思います。縦割りになってしまってもったいないので、できる限り情報共有ができる状況をつくっていただいて、こちらでも同じことをして、またこちらでもやっていた、実は別々にやっていたみたいなことにならないように、あわせて一緒にやっていけるような状態をつくっていただければいいのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

この内容につきましては、参加費が高いということもありますね。ここがちょっと気になっていたのですけれども、ペンとか、そういうものは、こんなにかかるものなのですか。

(鈴木氏)

1本三百幾らということで、それを何色もそろえるとなると、自分で買うということであれば、御自分のものなので、そんなに費用はかからないのですけれども、先生のものをお借りすることになると、維持するためには、それぐらいの金額が必要ということですが、ただ、参加費は、ちょっと見直さなければいけないとは思っています。

(高良委員長)

1,500円から2,000は、高いです。

( )

毎回かかるのですか。

(鈴木氏)

毎回かかってしまうということで、それは結構声として上がっています。

(高良委員長)

継続することになって、自分で買いますということになると、そんなには高くならないですか。

(鈴木氏)

高くないということですか。

(高良委員長)

このあたりも含めると、どうしてもお金がかかってしまうというのはあるのだと思いますが、そういったものが余りなくて、活動として、認知症の予防にもなって、かつ人の役にも立ってみたいな、非常にぜいたくな話なのですが、何かあれば、もっといいという気がします、何かないですか。

社協さん、これまでの経験からないですか。

(近江屋委員)

社協の近江屋です。

高齢者いきいき活動講座を市の委託でやっているのですけれども、参加の比率などを計算した表を見せてもらったら、歌は大人気です。男女とも、歌関係はすごく参加されています。

(高良委員長)

カラオケということですか。

(近江屋委員)

学芸大の歌の先生がいます。そういう先生に来ていただいているようです。

(高良委員長)

本格的な、合唱みたいなものですか。

(近江屋委員)

そういうものから、童謡とか、歌謡曲系とか、とりあえず習って、ほとんどが自主グループになるのです。いきいき講座は、自主グループ化した高齢のメンバーで、会費をとって、先生に支払って来てもらってやっていく感じになるみたいです。絵画教室などは女性が多いです。歌をやれば、間違えないみたいな形で言っていました。

(高良委員長)

歌も認知症予防にいいですね。ちゃんとお腹から声を出すのは、腹筋が何とかとか、体にもいいです。ボイストレーニングとか、そういうものもやるのですか。

(近江屋委員)

そういうものもやっていました。NHKのアナウンサーのボイストレーニングとか



ね。そうだと、女性が多いです。

(高良委員長)

ボイストレーニングは、私も受けてみたいです。

それだと、もともとはそんなにお金がかからない。でも、先生がいらっしやると、お金がかかるのですね。

(近江屋委員)

そうですね。毎回1, 500円ということはないと思いますが、月謝みたいになります。

(高良委員長)

私も定かなことは言えませんが、うちの大学の教員などもいろいろやっていると思うのですけれども、教員クラスになると、やはり高いのです。なので、大学院生レベルを狙うのが一番お利口だと思います。そうすると、本人にとっても、教えることが練習になるし、かつ修士レベルになると、かなりレベルが高いので、そういったところも活用していただくと、いいのではないかという気がします。音楽科もあるので、そちらの学生さんはやれると思います。済みません、何名いて、どうなのかというのは、全く把握していないので、具体的にはお伝えできないのですけれどもね。

いかがでしょうか。

ほかにきたエリアさんから、もっとこういうところを聞きたいということはありませんか。

(鈴木氏)

変な話、活動自体もコピーック・アートにすごく執着しているわけではないので、もちろんこれをきっかけに、いろんな活動に広がっていけばいいという、もともとのスタートなので、皆さんの意見を参考に、活動の内容も含めて、もう一度、協議していけたらいいと思っています。ありがとうございます。

(高良委員長)

ありがとうございます。

それでは、よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは「3 その他」を先にいったほうがいいですか。先に「3 その他」でいいですか。

### 3 その他

(高良委員長)

それでは、資料の資料名はないのですが、こちらをごらんいただけますでしょうか。

済みません、これは間違っているのです、まず訂正をお願いいたします。「地域ケア会

議と生活支援コーディネーター及び協議体との連動」となっております。

これにつきましては、以前、地域ケア会議運営マニュアルというものを、厚生労働省の事業で作成しました。長寿社会開発センターでさせていただいたのですが、このたび、制度改正もありましたし、また、実際に地域ケア会議が開催される中で、具体的に言うと、個別課題から地域課題への転換が非常に難しいとか、そういったところ、また、地域ケア会議の中でも、推進会議のやり方が難しい、わからないという声等もいろいろいただいておりますので、そういった中で、地域ケア会議運営ハンドブックというものを作成いたしました。

今、長寿社会開発センターで、最後の詰め、印刷をしているところなのですが、そういう中で、1つのコラムのところ、事例コラムといたしまして、小金井市さんから御了承いただきまして、このたび、こういう内容で、ハンドブックの中に入れさせていただいたということになります。事後報告になってしまいまして、皆様方にも申しわけありません。

先ほど御発表いただきました、ひがしエリアの活動になるのでしょうか。かわら版であるとか、保育園の園児さんとの話なども、具体的に入れさせていただきまして、いかに地域ケア会議と生活支援コーディネーター及び協議体が連動をしていくのかということの1つの例として、挙げさせていただいていることになります。

そういうことで、これが表にかなり出るとお思いますので、こちらで見せていただきたいですとか、問い合わせがあるかもしれませんが、その際にはよろしく願いいたします。そうでなくても忙しいのに、大変になってしまいますね。お名前もそのままなので、小金井市さんにお問い合わせがいくかもしれません。

( )

わかりました。私が言うのも何ですがね。

(高良委員長)

松原さんが大変になってしまいます。

(松原)

大丈夫です。

(高良委員長)

よろしくお願ひします。

また、でき上がりましたら、皆様方にも、何らかの形で御提供できるようにはしたいとお思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、その他、何かおありでしょうか。ありませんか。どうぞ。

(近江屋委員)

社協の近江屋です。

にし包括の雨宮さんとも御相談して、共催みたいな感じで、6月22日に域懇談会

を予定しています。いこいの家を場所にして、桜町自治会さんとか、民生委員さんなどをお呼びして、地域の方と一緒に、地域の課題などを話し合いながら、いこいの家を使って何かできないかということ、皆さんに相談していきたくと思っています。あと、子供会さんなども来てくれると思います。わんわんパトロールさんもいますので、こういったボランティアの方などを含めて、いこいの家自体は、二十何人とかしか入れない、一軒家の場所なのですけれども、ちょうどそのぐらいの人数でいけるのではないかということで、雨宮さんとお話をして、共催みたいな感じで考えています。うちの地域福祉コーディネーター、社協とか、あと、地区担当制で職員も全部配置することにしたので、その職員なども一緒にやっていこうと思っています。

ちょうど第一中学校とか、二小が近いので、放課後の子供たちの居場所にもなるし、午前中などは、お年寄りの憩いの場所になるし、いろいろ使い勝手があるのではないかと思います。地域の中では、ちょっとへんぴなところにあって、いろんなどころから来るには不便なのですけれども、地域で活用していただければと考えています。

(高良委員長)

ありがとうございます。

地域のあれだと、うちの大学は、文部科学省から特別経費をいただいて、昨年度からパッケージ型支援プロジェクトをやっているのですけれども、その中の一環で、小金井市さんとも協定を結ばせていただいて、さまざまな活動をさせていただいています。

その中の1つとして、うちの大学に「こどもモード」という保育園があるのですけれども、その施設を活用して、小学校が終わった後の放課後の児童保育みたいなことをやっています。学童クラブです。学童クラブは数が多過ぎて、なかなか難しいみたいなことがあります。

( )

待機しています。

(高良委員長)

その対策みたいなこともあって、うちの大学の中で、まずは始めてみました。最初はうちの附属の小学校の子たちが入るという形で、今年度になって、ようやく公立の小学校の子たちも来てもいい、近くの子たちは来てもいいみたいな形で広げているのです。

その中では、うちの大学の学生さんにボランティアとして入ってもらって、一緒に学習支援をしていくという形でやっているのですけれども、そういったものともあわせていければ、幾らでもいいのではないかと思います。

( )

今、めちゃくちゃいいと思いました。

(高良委員長)

場所として、うちの大学の中では、そこしかまだ使っていません。

( )

そこから出てきてくれることはあり得ますか。

(高良委員長)

もちろんです。今、小金井市さんでも、学習支援のものは、学校に入っただけの学習支援もやっていたと思います。プロジェクトの中でも、私は足立区の担当なので、小金井市のほうは、細かくはわかっていないのですけれども、足立区では、小学校と中学校に入っています。学生さんに入ってもらって、放課後の学習支援、授業内のサポーター、不登校の子たち、保健室登校の子たちの対応などもしています。

小金井市について、何か御存じですか。

( )

足立区と協定を結んで、そういう活動を始めたというのは、私は新聞で拝見しました。

(高良委員長)

小金井市さんのほうが、実は随分やっているのです。教育委員会のほうとやっているのです。

( )

教育委員会ですか。

(高良委員長)

教育委員会でやっています。

( )

内容は知らなかったです。協定を結んだということは、新聞で見ました。

(高良委員長)

せっかくなので、同じ小金井市なので、別に教育委員会でなければだめだというわけではないので、話をしているのは、できれば高齢の方たちもあわせて、それこそ元気な高齢者の方々はいっぱいいらっしゃって、先ほど高橋さんがおっしゃってくださったように、やりがい、人の役に立つみたいなのも含めて考えると、多世代の交流にもなります。そういうものも必要なのだろうという気がして、私が小金井市の担当だったらよかったのにと、後で思ったのですが、残念ながら、私が担当ではないので、あれなのですが、私もプロジェクトのメンバーなので、つなぐことは幾らでもできます。そちらもあるということです。

皆さん、お時間はなかなかないと思いますが、機会がありましたら、うちの大学のプロジェクトというサイトがあって、そこの中に、パッケージ型支援プロジェクトというサイトが別立てにありますので、それをごらんいただければ、いろんな活動をし

ていることが、おわかりいただけると思います。かなりのお金がついていますので、割と大々的にできる状況です。

( )

ぜひ御相談に伺いたいと思います。市内で自殺してしまった子供たちとか、中学生がいます。もっと地域で見守らなければというお母さんたちがたくさんいて、子供の居場所講座などにも出て、今、中学校の中でも、放課後の居場所をつくろう、ふやそうというお母さんとか、保護者の人がいます。学校の近くに場所があって、そこにお年寄りも来たり、いろんな人が来る中で、子供たちがちゃんと育まれればいいと思います。

(高良委員長)

私、小金井市の担当に移ろうかね。

( )

ぜひ伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(高良委員長)

またよろしく願いします。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

( )

坂道のあれをいただきましたが、参考なのはすけれども、お年寄りの人で、元気な人で、坂道のあれを横に歩くというか、上ったり、おりたり、こういう感じで、歩いて、運動している人がいます。国分寺崖線の坂をうまく利用して、運動している人がいます。国分寺は東京経済大学のほうからで、こちらから上ったら、しばらく横に動いて、また下って、横に動いて、また上がっています。確かに途中で幾つか坂がありますから、それで運動している人もいます。

( )

高齢の方がグループで歩いていますね。

( )

それはわかりません。

( )

坂はわかりませんが、遊歩道ですかね。悠友クラブという、老人クラブの人たちが集まって、結構歴史などもありますので、いいかもしれません。

(高良委員長)

坂は大変なだけではなく、そういう運動のためにも活用できるということですね。ありがとうございます。

( )

たまたまこういう環境があるということです。

(高良委員長)

本当にそうですね。

ほかにかがででしょうか。よろしいですか。

### (3) 次回協議体の開催予定

(高良委員長)

それでは、次回の協議体の開催につきまして、お願いいたします。

(松原)

介護福祉課の松原です。

次回の協議体の開催なのですけれども、9月を予定してまして、中でも、9日か12日を予定しているのですが、この場所をとる関係上、12日の月曜日を予定しているのですけれども、皆様、御都合はよろしいでしょうか。今の段階で、確実に無理と言うのは、なかなか難しいとは思うのですけれども、大体の目安として、12日を予定させていただきたいと思っております。

(高良委員長)

いかがでしょうか。

( )

時間は午後ですか。

(松原)

時間は、同じ2時から4時のこの時間帯です。

(高良委員長)

大丈夫ですか。

それでは、9月12日、2時から4時ということで、御予定をいただければと思います。

それでは、ほかに事務局というか、そちらから何かおありでしたら、お願いいたします。大丈夫ですか。

( )

はい。

## 4 閉会

(高良委員長)

15分早く終わりました。皆さんの御協力に感謝いたします。それでは、第1回の協議体は、これで終了させていただきます。どうもありがとうございました。お疲れ

様でした。